

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370300089
法人名	社会福祉法人 典人会
事業所名	グループホーム「ひまわり」
所在地	〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町字山馬越196 (電話) 0192-27-8605

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年5月18日

## 【情報提供票より】(平成21年2月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 8 年 12 月 11 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	11 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 11.8 人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	管理費 18,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	220 円	昼食	280 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(2月5日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	83 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	地ノ森クリニック、菊池歯科クリニック
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成8年に岩手県の最初のグループホームとして設置され、県内での認知症ケアの先導役を担っている。また、長い歴史だけでなく、介護を必要とする高齢者とその家族を支えてきた実績は素晴らしく、地域からも熱い信頼を受けている。さらにホームを運営する法人は、近隣の市町村でも複数の介護サービス事業を実施しているとともに、認知症ケアの知識を広めるために「気仙ぼけ一座」を立ちあげ啓発活動を行っている。開設から13年目、当初からの利用者もおもい重く進行しているなかで、「おいしいにおいにおい包まれ、笑顔とざわめきに囲まれて、当たり前の日々を」の実現を目指して、職員たちには学び続け、実践しようとする意欲が感じられる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	サービスの理念については、スタッフの意見を集約し見直しを行なっている。また、地域交流、運営推進会議、家族との連携などについては、ホーム独自のユニークな取り組みが継続され、さらに工夫が積み重ねられている様子が伺われた。利用者の重度化が進むなかでのその人らしさの支援、生きがいの支援については、地域におけるパイオニアのホームとして引き続きの取り組みが期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各項目ごとに職員が分担して評価し、最後に所長がとりまとめている。その評価を実施するプロセスの中で、自分で行っているケアを点検し新たな気づきを職員のミーティングで話し合い、更なるケアの充実に努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、サービスの利用状況、行事、研修会の出席状況等の報告とともに、夜間の避難訓練の様子をビデオ撮影し、それを話題に提供したところ、地域の住民からは何かあった時には自分が率先して協力しなければならない等活発な意見が出され、市担当職員からの参加者からも貴重な助言を得ることができているなど、有効に活用されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者のホームでの生活は、定期的に毎日の生活状況を「一行日誌」として毎月家族に送っているほか、家族がホームを訪れた際には利用者も交えて話し合う機会を持ち、詳しく報告している。職員は、家族との雑談の中で何気なく話されたことも大切にしながら運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人たちとの交流については、地区の子供会が「ミズキ団子」の飾りを持ってきてくれたり、同じ敷地内での盆踊り大会に招待されるなど交流は活発である。また、地域からの要請で小学生を対象に「気仙呆け一座」の公演依頼や多くの協力要請もあり、地域活動の受け手としてのみならず担い手としての存在感のある活動は特筆すべきものであると考えられる。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年職員間で話し合いを行っており、「ひまわり」で生活するとしたらどんな生活を望むかという全職員への問いかけを手始めに、職員個々が生活のイメージを描き、とりまとめることにより「おいしいにおいに包まれ、笑顔とざわめきに囲まれて、当たり前前のお年寄りとともに時を刻む」とう理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関入り口に掲示されており、お年寄り一人ひとりの思いの実現を、当たり前前の生活の中からのようにしたら実現できるのか、利用者との日頃のかかわりの中から課題を探り出し、月2回のスタッフミーティングで話し合いながら理念の共有と実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議で、地域交流についての話し合いを行い、正月行事の「ミズキ団子」を富沢地区の子供会の協力を得て飾ったり、地域の敬老会に招待され参加したり、同じ敷地内の老人保健施設の盆踊りに地域の人達とともに誘われたり、地域の行事に積極的に参加するなどして交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、まず評価の意義を職員全員で確認することからはじめ、各項目ごとに職員が分担して行うが、職員の間で話し合い、大切だと思われる項目は全員で取り組んでいる。その評価のプロセスの中での多くの気づきを大切にし、職員ミーティングで話し合い、日頃のケアサービスに活かしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	理念作成時に委員の方々に「GHでどんな生活を送りたいか」とアンケートに答えてもらったり、夜間の避難訓練の様子をビデオで見てもらうなど、話題を提供しながらホームに対する理解を深めている。さらには、地域交流のあり方について話し合い、会議で出た意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族からの困りごとで、公的機関につないだ方が良いと思われる事項は、すぐに市の担当部署に相談に出かけたり、困難事例等に関して包括支援センターから情報提供を受けるなど各機関との連携のもとで支援している。このほか、ホームでの各種行事開催の際には、担当者へ案内状を出している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の様子は、家族が訪れた時は詳しく説明するとともに、その他に毎日のひまわりでの様子を「一行日誌」として金銭管理の状況とともに毎月家族に送っている。また、利用者の状況が大きく変化した時などは電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営についての要望等は、年一回の家族アンケートや家族の来訪時、ケアプランを作る際など機会があるごとに伺っている。さらに雑談の中で何気なく話されたことも大切にしていきたいとしている。ただ、家族の意見がなかなか出にくいこともあり、何らかの対応を考えていきたいとしている。	○	ホームでは家族会が設置されているが、その運営について、家族が胸襟を開いて話ができるような雰囲気づくりへの取り組みを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特養や老健施設等多くの施設を運営する法人のため、毎年的人事異動は行われているが、GHでの大幅な異動は避けるように配慮しており、異動がある場合には利用者に事前に繰り返し話すとともに、転入してくる職員が利用者と同様顔なじみの関係を築くため時間的余裕を持って転入できるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験や役職に応じてスーパービジョンやコーチングに関する外部研修を受講するとともに、ミーティングの際に内部研修を行っている。また、法人全体会で職員同士の話し合いの場を設け、職員一人ひとりが意欲を持って仕事に取り組むことができるような研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護保険事業者の連絡会や交流会に参加するほか、今年は嚥下困難者の食事の調理方法などに関する勉強会を実施した。また、県グループホーム協会で毎月実施される研修会へ積極的に参加し、その後ホームで伝講会を開いて利用者へのケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申し込みがあると、まず職員が家庭を訪問し顔なじみになることからはじめ、家族とともにホームへ遊びに来てもらい他の利用者や職員とお茶を飲みながら、「ひまわり」の雰囲気を感じ取ってもらえるように工夫している。時には「お試し利用」を行いながらなじみの関係が築けるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日ごろ利用者の楽しみを一緒になって共有し、味わい喜びながら活動するような関係を大切にしている。季節の行事では利用者から仕来たりや祝い方、飾り付けの作り方などを学びながら、お互いに支えあう関係が自然に築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向の把握は、本人の望みや願い、家族の意向そして利用者の日常のしぐさ、感情の起伏などを職員が観察するとともに、センター方式を併用して把握に努めている。また、言葉のない利用者は声掛けの際の反応をよく観察し、利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、まず一人ひとりの利用者ごとに一日日誌や連絡帳を活用してアセスメントを行い、担当者の気づきを加えてミーティングで検討しケアプランの案を作成しており、それに家族等の意向を盛り込み最終的なケア計画としている。今後は、地域の社会資源をできるだけ取り込んで作り上げたいとしている。	○	地域の社会資源を効果的に活用するための手法として、スタッフ全員で地域の様々な人材、組織、施設、制度などについて検討を行い、エコマップの作成に取り組まれることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、年に2回定期的に行っている。利用者によっては、食事内容が変わったり、転倒が多くなったりなど心身の状態の変化が見られるような場合には、随時見直しを行っている。今後は利用者の小さな反応にも着目して介護計画の見直しを行いたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当グループホームでは共用型デイサービスとショートステイを併設しており、在宅で生活する認知症の利用者にとって大きな社会資源となっている。またショートステイはデイの利用者が交代で利用することが多く、顔なじみの職員と安心して利用できるようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としており、受診は原則的には家族にお願いしている。家族の都合が悪いときにはホームの職員が対応している。かかりつけ医との連携はうまく取れており、利用者が日常的に注意すべき事項等について、医師、家族、ホームの三者による適切な情報共有を目指している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所独自の「重度化及び看取りに関する指針」を定め、家族に説明を行なって、可能な限り利用者・家族の意向を伺いながら重度化対応に向けた支援に取り組んでいる。かかりつけ医からも協力を得ながら、職員全員で指針を確認し、看取りの勉強会にも取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との日常的な関係の中で親しさから不適切な言葉づかいになった時には、職員同士注意し合いながら対応しており、失禁などの場合には、他の人に悟られないように処理するなど、利用者の尊厳や羞恥心に対する配慮をしている。	○	ケースファイルなど個人情報が記載された文書等は鍵のかかる保管庫で管理をお願いしたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向に沿って一日を過ごせるような支援を考えているが、利用者の重度化が進んできているため、以前と比べて体を動かしたり外出などの活動的なサービスが少し難しくなっている。そのような状況ではあるが、散歩やドライブなど利用者のできる範囲内でメリハリのある生活が送れるように支援していきたいとしている。	○	時間の流れの中での利用者の心身の変化はやむを得ないもので、心身の変化は適切的な外部刺激の閾値を低下させることになるものと考えられる。そのような状態の変化に合わせた「その人らしい暮らし」の支援について、さらなる話し合いや取り組みを継続されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しは、毎日近くのスーパーに出かけており、利用者は店頭で並んだ旬の野菜や魚などを見つけたときには喜んで選んでいる。また、食事の下ごしらえは、腰かけてでも出来るように工夫し、障がいがあったとしてもできるだけ多くの利用者が参加できるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は平均して週3回程度行っており、入浴する際には意思疎通の困難な利用者も含め必ず希望の有無を伺っている。時には季節を感じてもらうために菖蒲湯を試みたり、仲の良い人同士は二人で入浴することもある。今後、入浴時間帯等について職員の勤務体制を含め検討していきたいとしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のこれまでの生活歴を職員が十分に理解し、関心や興味を持って取り組むことができることなどを探りながら、利用者の「力の発揮」が日常的な活動の中でできるように支援している。また、毎日の会話や散歩、行事を通して日々の生きがいや喜びに繋がることを目指して取り組みを行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向に沿って毎日のように、食材の買い出しに出かけたり、ドライブや敷地内の散歩等に出かけたりしている。利用者一人ひとりに楽しんでいただくために、個人的なスペシャルデーとして「チキンライスを食べる」などの目的を決めて出かけることや、普段と違ったお化粧品を出かけるなどの工夫も行なっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中は掛けておらず、自由に出入りができるようになっている。居室は鍵の設備はあるものの掛けるかどうかは利用者に任せているが、施錠していたとしても緊急時には職員が開けることができるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、マニュアルを作成し毎年2回実施している。特に夜間の訓練の状況をビデオで記録し、運営推進会議で話題に供したところ、地域の人から協力体制の強化を今後検討すべきとの意見が出されたため、今後の地域との連携強化のあり方についての検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューの栄養バランスについては、併設されている特養等の栄養士に点検してもらうとともに、定期的に利用者の体重測定を行い栄養面での支援の充実を目指している。飲み込みが困難な利用者には刻み食等により工夫して提供し、職員が見守りながら食事を摂っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームとデイサービスの利用者を合わせると、リビングに集う人数は多く、畳の小上がりでコタツに入っていたり、フロアのソファに腰を掛けるなどしながら、笑顔とざわめきに囲まれて一日を過ごしている。玄関には季節の花を飾ったり、香りを工夫したりと快適に過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の前には手作りの表札とともに、若い頃から現在までの写真を飾っている。居室には自宅で使いなれた家具が運び込まれ、旦那さんの位牌を持ち込んでいる利用者も見られた。また、大半の利用者はベットを利用しているが、畳に布団を敷くという利用者もあり、思い思いの居室づくりが行われている。		